安定した収入が得られる冬どりハウスレタス経営の確立

県西農林事務所経営・普及部門

筑西地域は、40年以上前からパイプハウスを利用したこだまスイカとトマトの生産が行われている産地です。このため、一部では土壌病害虫が発生しており、収量・品質の低下が問題となっていました。

このような中、平成10年からこだまスイカ等の既存パイプハウスを活用した冬どりレタス栽培が５戸の農家で始まり、平成19年には「ＪＡ北つくば東部レタス部会」が発足しました。普及部門では、導入当初から農家への栽培指導等を実施するなど、各関係機関と連携した冬どりレタスの産地化を支援していきます。

冬どりハウスレタスの普及拡大

平成19年の発足当時は会員17名､作付面積4.1haだったＪＡ部会は、現在では会員49名、栽培面積11.6haまで拡大する（**図１**）とともに、その品質においても各市場から高い評価を得るなど、信頼される産地としての地位を確立しています。さらに、農繁期の労働分散、冬期における収入の確保にも繋がり、生産者の農業経営の安定にも貢献しています。

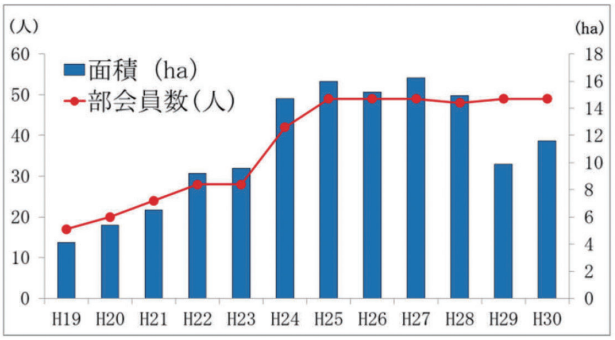
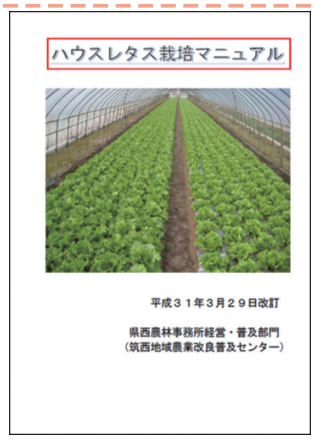


図１　ＪＡ北つくば東部レタス部会における部会員・作付面積の推移



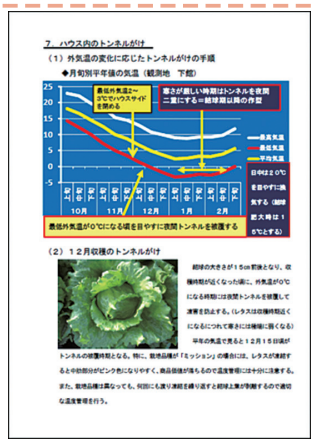


写真１　ハウスレタス栽培マニュアル

栽培管理技術のマニュアル化

厳寒期に栽培するハウスレタスにおいては、作型に応じた適性品種の選定、温度管理が重要となります。普及部門では、これらの課題の解決に向けて、ＪＡ、部会、民間企業等と連携して、品種比較試験や資材の検討、ハウス内温度管理試験を実施してきました。これらの試験結果をもとに栽培マニュアルを作成し（**写真１**）、部会員や新規作付希望者に配布することで、部会員の増加や技術の向上、作付面積の拡大を図りました。

所得向上にむけた経営管理能力の醸成

普及部門では、生産者の所得向上に向けた支援を展開しています。平成30年度は、将来の産地を担う若手生産者（４Ｈクラブ員）を対象に自身の農業経営について考える情報交換会を開催し（**写真２**）、各自の今後の経営目標を明確化しました。

雇用の導入を視野に入れる若手生産者も多いことから、今後は、経営者として必要な労務管理等の能力を習得して生産者の所得向上を目指します。

写真２　施設園芸若手生産者を対象とした情報交換会の開催